

龍潭寺の建物

龍潭寺の建物は建立後 200 年から 400 年経っています。本堂は 1676 年に再建されました。本堂は鳶張りの廊下が特徴です。鳶張りは一種の防犯装置で、その上を歩く者がいると鶯の鳴き声のような音がするので、侵入者がいることを知らせる役割を果たします。この廊下は、左甚五郎がつくったとされています。左は江戸時代（1603～1867 年）の架空の人物と思われる彫刻師で、日光東照宮の有名な彫刻「眠り猫」を彫ったと考えられています。本堂の廊下の上部にある龍の彫刻も左の作品とされています。

本堂の裏は池の庭園（池泉鑑賞式庭園）に面しています。庭園はどの方向から見ても素晴らしい眺めですが、庭園の東側の庫裡の主賓の席から最も美しく見えるように設計されています。庫裡で主賓の席に座るほど特別な人々はそこから庭園の眺めを味わえるとともに、龍潭寺への襲撃の際に逃げられるよう出口に最も近い場所に通されたのです。

その他の建物には、茶室、井伊家御霊屋があります。井伊家の霊廟である御霊屋には井伊家初代当主・井伊共保（1010～1093 年）ら、歴代当主の位牌が安置されています。そのほかにも龍潭寺の建物群のいたるところに、数百年も保存されてきた見事な彫刻、屏風、仏像があります。